

# 国語(現代文)

## 東京大学 (前期・文科) 1/4

### <総括>

文科	出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科	出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

「知性」と「反知性」のあり方について論じた文章。昨年度は本文の抽象度が高かったが、今年度は比較的読みやすい内容であった。このため、解答の方向性を見定めやすい設問が多く、全体として易化したと言えるだろう。

### <本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	内田樹「反知性主義者たちの肖像」(同編『日本の反知性主義』、晶文社、2015年刊)
頻出度合 ・的中等	入試で頻繁に出題される著者である。
分量 前年比較	分量 <b>減少</b> ・変化なし・増加 約2500字。昨年よりも200字減。
難易 前年比較	難易 <b>易化</b> ・変化なし・難化

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	文化論	(一)	記述	やや易	「そのような身体反応」が指す内容を踏まえつつ、それと「知の自己刷新」との関連を考えて説明する。
		(二)	記述	標準	「この人」が指す内容を的確にまとめつつ、「反知性主義」の特徴を念頭に置いて説明する。
		(三)	記述	標準	傍線部の「生きている」の内実を、本文全体からつかむことが求められている。
		(四)	記述	標準	傍線部を含む段落と次の段落の内容を踏まえ、「知性」の働きについて説明する。
		(五)	記述	標準	「この基準」が指す内容を押さえた上で、「反知性的」なあり方を本文全体を視野に入れつつ説明する。
		(六)	記述	標準	昨年度同様、三問の出題だった。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。  
書くべき要素を的確に捉え、簡潔明解にまとめる練習をしておこう。

# 国語 (古文)

## 東京大学 (前期・文科) 2/4

### <総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

オーソドックスな出題であった。

### <本文分析>

大問番号	第二問
出典 (作者)	『あきぎり』
頻出度合 ・的中等	時折見られる出典。この箇所の出題は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・変化なし・増加) 約900字 前年より約130字増。
難易 前年比較	難易 (易化・変化なし・難化)

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	物語	(一)			
		エ	記述	やや易	現代語訳。
		オ	記述	易	現代語訳。
		キ	記述	やや易	現代語訳。
		(二)	記述	やや易	内容説明。
第二問 (理科)	物語	(三)	記述	やや易	現代語訳 (主語を補う)。
		(四)	記述	やや難	内容説明 (「こがれ」に注意して姫君の心情を考える)。
		(五)	記述	標準	和歌の説明 (大意を説明する)。
		(一)			
		イ	記述	やや易	現代語訳。
	ウ	記述	易	現代語訳。	
	オ	記述	やや易	現代語訳。	
	(二)	記述	やや易	内容説明。	
	(三)	記述	標準	和歌の説明 (大意を説明する)。	

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。また、解答を簡潔にまとめる練習や和歌の学習も必要。

# 国語 (漢文)

## 東京大学 (前期・文科) 3/4

### <総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年通り文理共通問題であったが、本年は漢詩が出題された。昨年は理科では第二段落59字分が省略されていたが、本年は理科での省略はなかった。設問数は昨年は文科5題、理科4題であったが、本年は枝間を含めて文科6題、理科4題であった。昨年出題された空欄補充の設問は本年は出題されず、また昨年度同様、設問に関わる部分で送り点、送り仮名の省略もなかった。

例年通り、答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

### <本文分析>

大問番号	第三問	
出典 (作者)	蘇軾「寓居定恵院之東、雑花満山、有海棠一株、土人不知貴也」	
頻出度合 ・的中等	稀。	
分量 前年比較	分量 (減少・変化なし・増加) 文科は218字。昨年は203字 (昨年より15字増)。理科は218字。昨年は144字 (昨年より74字増)。	
難易 前年比較	難易 (易化・変化なし・難化)	

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	漢詩	(一)			
		a	記述	やや易	現代語訳。「空」に注意する。
		c	記述	やや易	現代語訳。前後の文脈に注意する。
		f	記述	標準	現代語訳。「那 (なんゾ)」に注意する。
		(二)	記述	やや難	内容説明。「海棠」を「佳人」にたとえていることに注意。
		(三)	記述	標準	内容説明。傍線部以降の内容に注意する。
		(四)	記述	標準	理由説明。直前の句の内容に注意する。
第三問 (理科)	漢詩	(一)			
		b	記述	やや易	現代語訳。前後の文脈に注意する。
		d	記述	標準	現代語訳。「那 (なんゾ)」に注意する。
		(二)	記述	やや難	内容説明。「海棠」を「佳人」にたとえていることに注意。
		(三)	記述	標準	理由説明。直前の句の内容に注意する。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。

細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。

漢詩もたびたび出題されるので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。

# 国語(現代文)

## 東京大学 (前期・文科) 4/4

### <総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

作家であり仏文学者でもある筆者による、詩的なエッセイ。第四問は芸術家や作家による随筆からの出題が多いが、そうした意味では今年も例年の傾向どおりの出題である。ただし、本文は感覚的な表現が多用されていて読みにくく、全体に昨年より難化したといえるだろう。

### <本文分析>

大問番号	第四問 (文科のみ)
出典 (作者)	堀江敏幸「青空の中和のあとで」(日本経済新聞2014年8月3日)の全文。後に日本文藝家協会編『ベスト・エッセイ2015』(光村図書)に所収。
頻出度合・的中等	入試で頻出する筆者の文章である。
分量 前年比較	分量 <b>減少</b> ・変化なし・増加 約2110字。昨年よりも約1080字減少。
難易 前年比較	難易 (易化・変化なし・ <b>難化</b> )

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
第四問	随筆	(一)	記述	やや難	傍線部理由説明。直前および後の二つの段落の内容をふまえ、「恩寵」がもたらされる条件と、それを阻害する「予報」とを対比させる。
		(二)	記述	やや難	傍線部内容説明。傍線部に続く部分の内容をまとめればよいが、「海の青」と「空の青」とに微妙な違いがあるため、どう答えるかが難しい。
		(三)	記述	標準	傍線部内容説明。傍線部を含む段落とその次段落の内容にもとづき、「単調な日々」の「裏面」に「暴発的なエネルギー」による「小さな変貌の断続的な繰り返し」があるということを答える。
		(四)	記述	やや難	傍線部内容説明。青空の変化に呼応する自己刷新と、そのことへの「自負と願望」、さらにそれが赤い風船に目を奪われることで「あっさり消し去られた」ということを答える。字数内にまとめるのは難しい。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

文学者・芸術家のエッセイを含むさまざまなタイプの文章に積極的にふれ、高度な読解力を身につけること。何が問われているかがわかりにくい設問も多いため、解答の方向を正確に見定め、答えるべきことをわかりやすく簡潔な表現で自在に説明しうる表現力を養う必要がある。